

公立小中学校施設の老朽化対策【文部科学省】

施策概要

公立小中学校施設の計画的・効率的な長寿命化を図る老朽化対策(非構造部材(外壁、内壁、窓ガラス等)の耐震対策を含む。)を支援

効果

老朽化対策の実施により、建物の耐久性・安全性・機能が大幅に上昇し、地震発生時の被害を防止

全国的な対策と効果

対策1 全国的に効果的・効率的に実施できる長寿命化改修を実施



長寿命化改修により建て替え同等の教育環境を確保

学習内容・学習形態の多様化への対応

対策2 外壁、内壁、窓ガラス等の非構造部材の老朽化対策を支援



横連窓の障子ごとの脱落

外壁の全面的な脱落

築45年以上の公立小中学校施設における未改修の施設のうち、必要性が認められる2,548万㎡のうち41.1%の老朽化対策を実施 (R6年5月時点)

5か年加速化対策の効果

老朽化対策の実施により、建物の耐久性・安全性・機能が大幅に上昇し、地震発生時の被害を防止され、地域住民の安全安心を確保



避難所イメージ



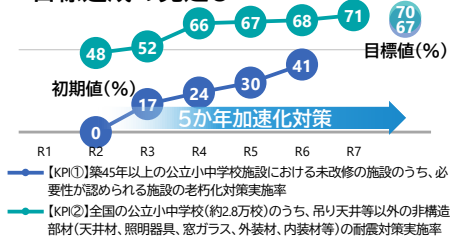
老朽化対策を実施しなかった場合の被害イメージ

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
1,218億円	448億円	444億円
R6	R7	累計
424億円	1,066億円	3,600億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



整備事例

校舎の老朽化対策により、安全性及び機能的な環境を向上する



東京都北区



東京都北区



長寿命化改良事業

■ 校舎における耐震対策の状況



■ 事業費

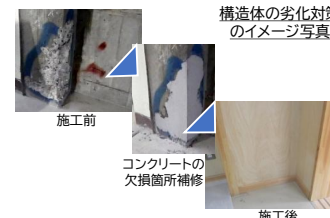
23億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)3.7億円)

■ 事業の背景(地域の課題)

東京都北区が保有・管理する建築物の総延床面積のうち、学校教育系施設が占める割合は4割を超え、このうち公立小中学校については、約7割の施設が築40年以上を経過しており、老朽化による安全面での不具合が発生しているほか、災害発生時の事故等のリスクが高まっています。このため、長寿命化改良事業により、トータルコストの縮減や財政負担の平準化を図りつつ、着実に老朽化対策を進めていくことが喫緊の課題となっています。

■ 事業の内容

東京都北区において、老朽化した公立学校施設について、将来にわたって長く使い続けるため、建物全体の耐久性の向上および機能や性能の向上を実施しました。あわせて、バリアフリー化の推進やエコスクールの推進など機能的で使いやすい地域拠点としての整備を行っています。防災機能の充実として、屋内運動場には空調や太陽光パネルからの電力供給を可能とした設備やスロープの設置を行ったほか、屋外にはマンホールトイレやかまどベンチ、非常用発電機を設置するなど、避難所としての機能の拡充を図りました。



■ 見込まれる効果

構造体の劣化対策やライフラインの更新などにより、建物の耐久性や安全性が高められるとともに、バリアフリー化や防災機能の充実等により、災害時の避難所(地域拠点)としての機能が大幅に向上しました。

(1)	1	人命・財産の被害最小化	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	2	交通・ライフラインの維持	インフラの老朽化対策
(1)	3	施策のデジタル化	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)		災害関連情報の高度化	